

はじめに

本書について

本書の特長は下記3点です。試験の全てを学習したい方、項目ごとの出題用語集として使いたい方、過去問演習をしたい方を想定しています。

完全シラバス準拠

公開されているシラバス(試験における知識・技能の細目)、試験要綱を全項目カバーしています。項目の順序もシラバスに合わせてあります。

過去問フルカバー

試験開始前に公開されたサンプル問題及び第1, 2回試験(平成28年春, 秋)の全問題とそのオリジナル解説を掲載しています。また、出題された全用語を本文に載せています。

ITパスポート、基本情報対応

ITパスポート試験の公開問題に出題された項目の解説は短めに、そうでない項目の解説は長めにしています。また、各章トップで、ITパスポート試験、基本情報試験との出題傾向の違いを説明しています。

著作権について

引用しているシラバスの文言、問題文、問題画像などの著作権はIPA 独立行政法人 情報処理推進機構 にあり、それら以外の著作権は ランドッグ・オーグ平野正喜事務所 にあります。

試験名略号と問題番号について

試験名は略号で示しています。

- SG=情報セキュリティマネジメント試験
- SC=情報セキュリティスペシャリスト試験・情報処理安全確保支援士試験(平成29年春以降)
- FE=基本情報技術者試験
- AP=応用情報技術者試験
- SW=ソフトウェア開発技術者試験
- IP=ITパスポート試験
- ST=ITストラテジスト試験

引用・参照している問題番号は「試験名の略号」+「平成の年」+「春(平成 23 年のみ“特”)/秋/サンプル(サンプル試験)」+「問番号」になっており、午後問題の場合は「問番号」の前に「午後」が入ります。

例えば「FE28 秋 32」は「基本情報試験の平成 28 年度秋試験の午前問題の間 32」を指します。

試験概要

以下は情報処理技術者試験センターが公開している「試験要綱 Ver 3.0」(平成 29 年度春期試験から適用)からの抜粋です。

対象者像

情報システムの利用部門にあつて、情報セキュリティリーダーとして、部門の業務遂行に必要な情報セキュリティ対策や組織が定めた情報セキュリティ諸規程(情報セキュリティポリシーを含む組織内諸規程)の目的・内容を適切に理解し、情報及び情報システムを安全に活用するために、情報セキュリティが確保された状況を実現し、維持・改善する者。

レベル対応

共通キャリア・スキルフレームワークのレベル 2 に相当

試験時間・出題形式・出題数・解答数

	午前	午後
時間	9:30～11:00 (90 分)	12:30～14:00 (90 分)
出題形式	多岐選択式(4 択)	多岐選択式
問題数	50 問	3 問

採点方式・配点・合格基準

採点方式は素点方式を採用する。午前・午後ともに 100 点満点で、両方が基準点(60 点)以上の場合に合格とする(試験結果に問題の難易差が認められた場合には、基準点の変更を行うことがある)。

午前問題は1問各2点、午後問題は1問各 34 点(上限は 100 点)。

試験の実施方法・実施時期

ペーパー方式で、春期・秋期(4 月・10 月 第 3 日曜日)の年 2 回。

FAQ・Tips(よくある質問とヒント)

以下は筆者が Twitter にて掲載している「情報セキュリティマネジメント試験 Tips(https://twitter.com/SG_Tips)」からの抜粋です。学生諸君や受験予定の方からの質問などへの返答をまとめました。

Q「午前問題の系統別の出題割合 は？」

A「第1回(H28 年春), 第2回(H28 年秋)共に, **ストラテジ系が 10 問, マネジメント系が 6 問, テクノロジ系が 34 問** でした。ただし, 各問がどの系統かは問題用紙には明示されません(解答例で公開されます)」

Q「午前試験の 6 割以上がテクノロジ系だから, テクノロジ系のみ勉強すれば合格ラインを超えるのか？」

A「系統をまたがった問題もありますので, テクノロジ系に偏った対策はお勧めしません。ストラテジ系, マネジメント系を苦手なせめよう準備してください。なお, IT パスポート試験のような系統ごとの最低得点義務はありません」

Q「午後問題の出題分野 は？」

A「要綱では, **情報セキュリティマネジメントの計画, 情報セキュリティ要求事項, 情報セキュリティマネジメントの運用・継続的改善** の3点です。第1回は『標的型攻撃メールの脅威と対策』『業務委託におけるアクセス制御』『情報セキュリティ自己点検』の3問でした(15章参照)。第2回は『オンラインストレージサービスの利用における情報セキュリティ対策』『情報機器の紛失』『業務用 PC での Web サイト閲覧』の3問でした(17章参照)」

Q「情報セキュリティマネジメント試験と IT パスポート, 基本情報の関係 は？」

A「**基本情報と同じレベル 2** の試験と位置づけられており, レベル 1 の IT パスポート試験を合格した次のステップとして活用されることが想定されています。なお, 前提の資格はありませんので直接受験可能です」

Q「受験申込みを早めにするメリット は？」

A「公式のメリットはありませんが, 一説によると, 住所に近い会場が指定される場合があるようです。IT パスポートとは異なり, 受験地区を指定することしかできません(受験会場を選べません)ので, もしそうなら良いですね。どちらにしろ **締切で慌てぬよう申込みはお早目に**」

Q「問題別配点割合 は公開されているの？」

A「前述のとおり, 午前は 50 問で各 2 点, 午後は 3 問で各 34 点(合計上限 100 点)です。IT パスポートとは異なり **問題ごとの配点差はありません**。なお, 午後の設問, 枝問毎の点数は非公開です」

Q「IT パスポートや基本情報と違ってストラテジ系の『経営戦略』は出題されないの？」

A「試験要綱ではそうになっていますが, 実際には, **コアコンピタンス, コーポレートアン**

デンティティ, 3C, SCM, ERP などが出題されています(よって 本書ではストラテジ系の章に盛り込んで説明しています). なお, どれも, 基礎的用語ですから IT パスポート合格済の方なら大丈夫でしょう. この試験を直接受ける方は注意が必要です」

Q「テクノロジー系の『基礎理論』『開発技術』は出題されないの？」

A「確かに試験要綱ではこの2分野は出題対象外です. しかし, ビット, 圧縮, レビュー等のようにこの2分野に含まれる **基本用語の一部は他分野の出題に使われます** ので, ご注意ください. これも, IT パスポート合格済の方なら大丈夫でしょう」

Q「SQL の文法は出題されないの？」

A「シラバスの『要求される知識』に SQL がありますが, 文法はサンプル問題, 第 1, 2 回試験では出題されていません. また IT パスポートシラバスには『SQL の文法は問わない』と明示されています. 断言はできませんが **出題の可能性は低そう** です」

Q「この試験の **他試験にない特徴** は？」

A「**午前と午後の試験の間が 90 分もある** ことです. 午前の四択 50 問に対して, 午後は超長文読解ですので, 昼休みに頭をしっかりクールダウンして, 適度な量の食事を取ることをお勧めします. なお試験会場周辺にお店が全く無いことがありますので, 準備は周到に」

Q「ネットワークの問題では**基礎理論に含まれる知識は出題されない** の？」

A「基数変換や確率などの基礎理論は出題範囲外なので, ネットワークの問題では, アドレスの構造やサブネットマスクのような基礎理論の知識が必要なものは未出題です. しかし, IT パスポート試験では出題されていますので, **今後も出題されないとは断言できません**. これも, IT パスポート合格済の方なら大丈夫でしょう」

Q「**応募者数** は？」

A「第一回は 21,691 人で, 第二回は 22,186 人に **増加** しました」

Q「**合格率は上昇傾向？下降傾向？**」

A「合格点が固定で人数制限のない試験ですので **合格率を気にする必要は全くありません** が, ご参考までに. 第1回は 88.0%, 先日の第2回は 70.3%でした. 下降傾向に見えますが, 第1回が異常だったと考えて良いでしょう」

Q「2016 年 9 月 29 日に更新された **新しいシラバス(1.1)における変更内容** は？」

A「微細な変更でした. コンピュータシステム:システム構成要素:システムの構成において DaaS が削除され(本書では残してあります), システム戦略:システム活用促進・評価において IoT が追加されたのみです」

Q「2016 年 10 月 21 日に発表された **新しい試験要綱(ver.3.0)における変更内容** は？」

A「[午前の試験]出題範囲の知識項目例の一部見直しが行われました. ストラテジ系の「システム戦略ーシステム活用促進・評価」において「情報リテラシ, データ活用, IT

の有効活用(IoT, AI ほか), 普及啓発」が追加されただけでした。実質的に, IoT の追加のみと言えるでしょう。〔午後の出題範囲〕については変更はありませんでした」

Q「この試験と **情報処理安全確保支援士試験との関係** は？」

A「主催者のサイトには **明示されていません**。同じセキュリティ関係の試験ですが, まったく系統が異なる扱いになっているようです」